



中宮遺跡を見学する武蔵高校の皆さん

ねりまの文化財

大切にしたい区民の財産

地中に眠る原始・古代遺跡

練馬区教育委員会
社会教育課
(文化財保護係)
☎993-1111 内線2766
〒176練馬区豊玉北6-12

区では、多数散在する原始・古代を主とした諸遺跡の把握と、保護に努めています。一方で、地価の高騰による土地利用の活発化で、遺跡は破壊の危機にさらされています。遺跡地での建築工事等の際は、現状での保存のため区民・事業者の協力をいただくほか、やむをえず破壊されてしまう場合は、教育委員会や調査団体が発掘調査し、記録保存の措置をとっています。

激増した埋蔵文化財の相談・問合せ

昭和63年度、窓口での照会は296件で、発掘の届出は33件。試掘は53件。発掘調査は7件となっています。本年度は、三か月ですでに100件以上になりました。

平成元年度中に実施される主な調査は、

後述の「東早淵」「中宮」のほか、「愛宕下」「比丘尼橋」などの各遺跡の発掘調査です。この他にも、小規模な発掘調査や、前年度発掘した遺跡の整理調査を行っています。

親子発掘教室など、「東早淵」では

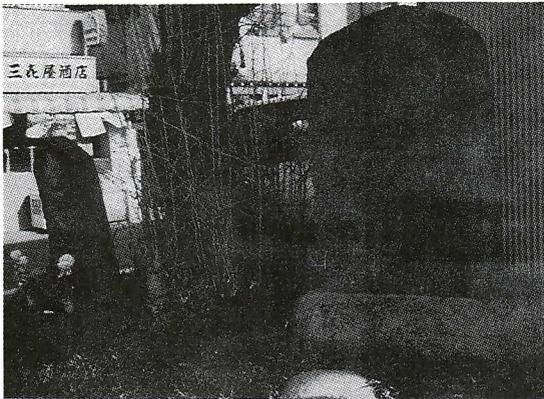
区民参加で遺跡の保存・活用が：

区内には、石神井に「池淵史跡公園」があり、遺跡が埋戻し保存されています。早宮一丁目で、公園を整備するにあたって、旧石器から奈良・平安時代にかけての遺跡の存在が確認されたため、区民参加で史跡公園づくりをすることになりました。既に練馬区報7月1日号で募集した親子発掘教室や、遺跡発掘探検隊などが、7月24日から8月11日までの間に発掘調査をします。(一般の見学者はフェンスの外側からとなります)

「中宮遺跡」では、

発掘現場見学会を予定

石神井川流域で、東早淵よりやや上流の早宮三丁目、都営住宅建替のための事前発掘調査が行われています。危険防止のため、普通は見学できませんが、特に日時を定めて、一般見学会を開催することがあります。8月下旬の予定で、詳しくは、区報などでお知らせいたします。



今神道記念碑と庚申塔 (氷川台二丁目)

区内に現存することがわかっていている庚申塔は、132基あります。

古くは寛文3年(一六六三)から昭和49年(一九七四)まで、その時々の人々の庚申待供養成就や二世安楽などを祈願して造立されたものです。

江戸時代から続く寺社の境内には、庚申塔を含めた石造物が数多く保存されています。これらは、元は村境や交差点などの路傍に立っていましたが、区画整理

石造文化財の移設をめぐって

——庚申塔を中心にして——

文化財保護推進員 松本 龍雄

河川改修・道路の拡幅や新設・宅地造成など、開発の波に押されて寺社に納められたものです。

私たちは、長い年月、庶民の信仰の対象であった庚申塔が、できれば元の場所に置かれ続けることを望みたいのですが、都市化の進む現状では無理なのではないか。

次に、移設されたいくつかの庚申塔の例を紹介し、参考に供したいと思います。

一、氷川台2-17の今神道記念碑と

享保7年(一七二二)の庚申塔

「記念碑と庚申塔がなくなった」という知らせを聞いたのは、今年4月3日のことでした。

早速出かけて聞き歩いたところ、今まで倉庫だった場所を、地主の方の意向で駐車場にすることになり、3月末に移設したことがわかりました。

記念碑は氷川台2-13の諏訪神社に、庚申塔は錦1-19の円明院に移されています。

わがまち再発見

春の史跡散歩

5/21

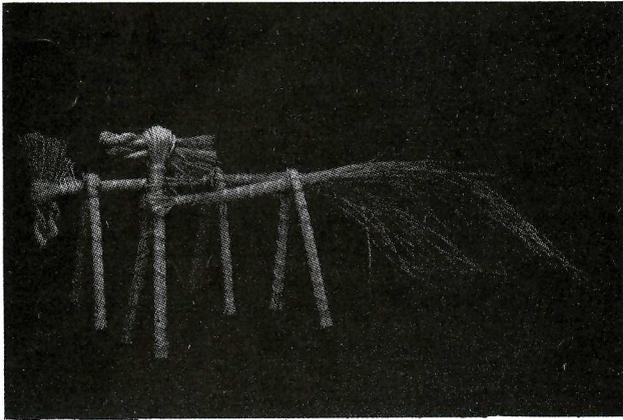


寿福寺境内での説明 (春日町三丁目)

去る5月21日(日)、恒例の春の史跡散歩を行いました。小雨模様の中、約200名が参加して、3時間半の散策を楽しみました。

参加者の全体を二班に分け、講師の先生方の解説を聞きながら、練馬城跡・向山庭園・尾崎遺跡資料展示室・春日神社・寿福寺・中宮遺跡・十一か寺・白山神社阿弥陀寺の順に見学しました。身近な史跡から練馬の昔に触れることができ、まさにわがまち再発見のひとつでした。

郷土資料室収蔵品 シリーズ



ちかが馬 (郷土資料カードより)

練馬区の一部の農家では、七夕まつりのかざりとして、色たんざくをつけた笹竹に、「ちかが馬」をつける風習が残っていました。この馬は「ちがや」や、稲わら等をつかつて、牝牝一対がつくれます。そして、その前には、いろいろなお供え物が置かれます。

七夕が終ると、川に流したり、屋根に投げあげたり、木にしぼりつけたりしました。

昔から人々の間では、この馬は祖先の霊の乗物であったり、子孫の繁栄と作物の豊作をもたらすものと信じられてきたものです。



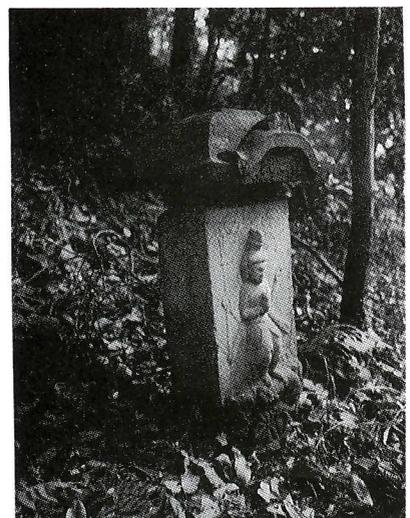
二、貫井4-30の二基の庚申塔
 右 宝永元年(一七〇四)造立。
 左 元禄5年(一六九二)造立。
 真中に割れ目補修の跡あり。

この二基は、昨年工事が始まった時の話では、元の場所に置くというつもりだったが、貫井5-7の円光院山門前の左側に移設され、元の場所には電話ボックスが置かれていました。

残念なことは、割れ目のついていた庚申塔の上部が、欠損したまま移されたことです。欠けた部分は何者かに持去られて見つからなかったということです。

三、郷土資料室に移設された
 五基の庚申塔の内の一基
 享保12年(一七二七)の方形笠付型の庚申塔は、元は豊玉北5-7にありました。持主の望月さんの転居とともに、石神井町8-42に移されていましたが、昭和60年、区外へ転居する際に寄贈されたものです。

四、八王子に移されていた庚申塔
 この庚申塔は貫井3-33にあったものですが、しばらくの間、行方不明でした。昭和50年、地元の学校の先生の知らせて所在がわかりました。



移されていた庚申塔(八王子市廿里町)

場所は八王子市廿里町の山腹にある白山神社参道の途中の草の中に移されていました。

「元禄13年(一七〇〇)武州豊嶋郡上練馬之内貫井村 結衆十五人」と刻まれています。

以前、個人の敷地内と個人墓地内にある庚申塔を調査した時「これはどういうものですか」と家人に聞かれ、庚申信仰について説明したことがあります。

信仰心がなくなつたことは致し方ないとしても、祖先が残してくれた文化財を大切にすることを失いたくないものです。

古民家めぐり



古民家を目の当りに見て、古きをたずねて新しきを知るが如く、昔の生活の厳しさが分かり、今の生活の豊かさ、便利さを幸せに思う反面、何か土の感触や煙の匂いは郷愁を誘い、心の暖かさを感しました。

春の文化財講座

6月15・16日

展示建造物の名主宅、商家、武家屋敷、網元の家の柱や梁の建材の立派さに驚きましたが、小作人、長屋住いの町人、漁師の家等も、どんな生活様式なのか、見たいと思いました。

今回は、有意義な一日をすごさせていただき、ありがとうございました。

豊玉南三丁目 米谷 治子

(参加者のお一人に、感想を書いていただきました。——係)

文化財日誌

(平成元年4月1日～6月31日)

〈4月〉

19日 埋蔵文化財立会たちあひ(平和台一丁目)

中宮遺跡 発掘調査準備

23日～30日 稲荷山遺跡展

24日～27日 大泉井頭遺跡いづみ試掘調査(東大泉七丁目、縄文中期竪穴住居?)

大泉七丁目、縄文中期竪穴住居?)

25日 中宮遺跡発掘調査開始(早宮三丁目、古墳時代等住居址数軒他、縄文

目、古墳時代等住居址数軒他、縄文

早・中期、弥生後期等遺物多数)

〈5月〉

8日 埋蔵文化財実踏(関町北三丁目)

10日 " (東大泉二丁目)

19日 " (大泉町三丁目)

21日 史跡散歩(練馬コース 200名)

22日 埋蔵文化財立会(東大泉二丁目)

24日 住宅調査(向山三丁目)

民具収集(北町一丁目)

27日～28日 日本考古学協会大会

〈6月〉

1日 東早淵遺跡試掘調査準備

5日～9日、12日 東早淵遺跡試掘調査

(早宮一丁目、弥生後期等住居跡10

数軒、縄文早・中期、弥生後期、奈

良、平安等遺物多数)

13日 文化財調査(水車)

読者のみなさんの投稿を募集中!

「ねりまの文化財」は、毎年1・4・

7・10月の発行予定です。文化財保護行

政のためのPR紙という性格を越えて、

区民の皆さんの文化財関連サークル等

のお役に立ちたいと考えています。たて18

文字の原稿をお送り下さい。(応募原稿

は返却しません。コピーをお取り下さい)

~~~~~

**あ** やしい光を放ち、群舞するホタル。そんな光景が東京から失われて、すでに長い時が経ってしまいました。

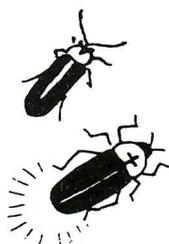
郷土資料室で4日間おこなったホタルの観察会には、のべ351人の方が参加されました。ずいぶん遠方からや、小さな

お子様連れなど、初めてホタルを

ごらんになった

という人もあり

ました。



~~~~~

14日 文化財保護推進員会

15日～16日 文化財講座

17日～18日 ホタル観察会(郷土資料室)

24日～25日 "

26日 文化財保護審議会

29日～30日 埋蔵文化財試掘(豊玉南)